

教員紹介

ご自身の研究や教育観を語っていただく「教員紹介」。今回はシミュレーション科学教育研究センター長に着任された、理学部 情報科学科 教授の伊藤貴之先生にお話を伺います。



Ito Takayuki
伊藤 貴之

どんどん外に出て行って、
広い世界を見て欲しい

Q ご経歴を簡単に教えてください。

1992年に早稲田大学大学院修士課程修了後、日本IBM東京基礎研究所に就職。ここで研究をしながら1997年に博士号を取得しました。その後、2005年にお茶大に着任しました。

Q 現在は情報科学をご専門とされていますが、広い意味で科学を志す気持が芽生えた最初のきっかけはどのようなものでしたか？

小さいころは地学や気象などに興味を持っていたのですが、決定的だったのは小学校5年生の時、親戚が間違って買ってしまった電子工作とプログラミングに関する雑誌を読んだことです。それで小学生なのに雑誌を読んでプログラムを書いたり始めました。また、中学校では吹奏楽部に入ったのですが、この時に作曲に興味を持つようになりました。それでミキサーを電子工作(部品をハンダ付けしながら)で自作し、自分で作曲した曲を録音したりしました。こうして電気好き、音楽好きが高じて大学では電気・情報系の学科に進むことになったのです。将来はサウンド・エンジニアになりたいと思っていました。

Q その時、すでにパソコンをお持ちだったのですか？

いえ、持っていませんでした。そこらへんのノートに鉛筆でBASICのプログラムを書いていたのです。それで書き終えたらノートを持参して秋葉原の電気屋さんの店頭においてあったパソコンでノートに書いたプログラムを打ち込んだりしていました。

Q サウンド・エンジニアを志しながらも研究の道へ進むことになったきっかけは？

大学では電気と音楽の両方をやりたいということで、音響工学の先生がいた学科に入ったのですが、その方が定年で退職されてしまい、その際に後任をとらなかつたため、音響工学の先生が学科にいなくなってしまったのです。それで次に興味があった美術に関連した、コンピュータグラフィックスの研究室に進むことになりました。

Q ご専門および研究内容について、いくつかご紹介ください。

専門はコンピュータグラフィックスです。より細かく言うと、「情報の可視化」をテーマにしています。音楽のような目に見えないものを絵として表してみたり、タンパク質のどの部分が薬と親和性が高いのか、またはクレジットカードの決済情報から、不正使用の手口を可視化したりもします。各研究課題毎に、学生と共に学外の民間企業、団体(現在5箇所と契約)との共同研究を行なっています。また、学生が自発的に取り組みたい問題を持っている場合はそれを具体的な研究テーマとして立ち上げられるようサポートし、必要に応じて学外の専門家と共同で取り組んだりします。

Q 先生ご自身は企業研究所と大学の両方での研究活動を経験されているわけですが、両者の特長や違いなど教えてください。

企業の研究所はプロ集団なので、研究を始めるにあたり、誰にも何も教える必要はありません。一方で大学では学生を育てながら研究を進めることになるので、研究開始初日から躰いたりすることが当たり前です。また、企業では事情により、研究が途中で打ち切られたりします。現場で取り組んでいる研究者はあと3ヶ月あれば成果が出せる、と思っても会社の方針で途中で

撤退することもあり、悔しい思いをしたこともありました。一方大学では完全に私自身の責任で研究を進められるので、途中で誰にも遮られること無く、最後までやり切ることができます。

Q この度新設され、センター長になられたシミュレーション科学教育研究センターについてご紹介ください。

シミュレーション科学教育研究センターは今年の4月に設立されました。一口でシミュレーションといっても、情報や物理、化学等、分野によって全く違う取り組みがされています。分野毎の違いや幅広さに対する認識を深めて、分野を超えて融合した技術を世に出したいと考えています。本学の謳う、文理融合や生活者視点というものにフォーカスし、シミュレーション科学の新しい展開を目指します。特に環境や防災等の分野でイノベーションを作る働きをしたいと思っています。

Q 最後にお茶の水女子大学の学生に関する思い(印象)とメッセージをお願いします。

本学は小規模な大学なので、身の回りの人々の多様性が限られます。どんどん外に出て行って、広い世界を見て欲しいです。それで面食らう事があったり、力の差を感じることもあるかも知れませんが、本学の学生達は力のある人が多いので、すぐに追いつき、追い越せるでしょう。そういう自信を持って、楽観的に広い世界を見て日々を過ごして欲しいと思います。

文責: 曹 基哲
(大学院人間文化創成科学研究科自然・応用科学系教授)

